

法話概略【快い挨拶は『自利利他』効果がある】

6月半ばに、各部署の目標等も入った今年度の完全版の事業計画が皆さんに渡されました。その中の5頁には毎年掲載される文章があります。

あいさつの心得

光寿会の基本姿勢 … 『サービスとは、挨拶そのものに尽きる』

- ◎挨拶の「挨」は、
様々ないきさつを投げ捨てて、わが胸を開くことである。
(相手の胸を開かせることではない!)
- ◎挨拶の「拶」は、
「あなたが居てくれることが私の幸せです……」と、
わが胸に相手を抱きしめることである。

これは、先代から受け継がれてきたものですが、現代の感覚からすると解釈が難しいなあと感じながらこの言葉に目を通している事もあります。同じ5頁の下段には、『21日間信念を持ってやり続けた事は習慣として身につく』旨の事を掲載しています。これを体現している人として、光寿苑総括課長・H.Hさんがいます。私は22年、一緒に仕事してきましたが、まず、悪いため息をつく事がない方です。少しはため息つく事もあったでしょうが(笑)、ため息の後には、自らよい空気に変えてしまう習慣を持った方です。以前、大事な書類を紛失してしまった際、

“ゴミ箱に大事にとっておいだんだどもな”と言い放ち、重い空気を許しの空気に換えてしまった事がありました。私もずっとご一緒させて頂きながら、気づけば、“自分はどうかだったかな？こんな人に成れたらいいな”という、自分を振り返る一つのお手本に成っていました。

仏教では、『自利利他』という言葉で示されるものですが、『利』は『すくう、助ける』という意味を持ち、世の中では、「利益」という言葉で使われています。元々の利益の意味から自利利他を解釈すると、『**他をすくう事はそのまま自分をすくう事 自分の利益がそのまま他者の利益につながる**』という事になりましょうか。

私たちの仕事は、『他人を助ける』役目ですが、同時に関わった自分自身の喜び(すくい)になる事が必要となります。〔一方的に他者を助け続けるのには限界があるため〕

他者の喜びが自分の喜びに成る。自分の笑顔が他者の笑顔を生み出す。

そのような相乗効果を願った言葉であります。

私の快い挨拶が他人の快い挨拶を導き、周りの良き空気によって私の穏やかな心持ちが引き出されるという基本線に立ち還りながら、お互いがよい見本と成る習慣化に努めて参りましょう。

【追記】 ため息をつく事は誰にでもあります。むしろ、つく必要があると思っています。大事なものは、つく場所とついた後にどう切り替えるか。“切り替えて、気持ち新たに次の場面に向かうため、のため息と解釈すれば良いのではないのでしょうか。

【光寿会理事長】